

## 電子書籍について

### 1 電子書籍とは

#### 定義

既存の書籍や雑誌に代わる有償あるいは無償の電子的著作物で、  
電子端末上で専用のビューアにより閲覧されるフォーマット化されたデータ

- 「電子化された書籍データ」であり、電子機器のディスプレイで閲覧する出版物なので、書籍としてのコンテンツ以外に、電子端末と閲覧用のビューアが必要
- 電子端末とは、小型・軽量で持ち運びに適した電子機器のことで、パーソナルコンピュータはもとより、携帯電話、スマートフォン、タブレット型端末などが挙げられる。
- コンテンツの種類は、一般書、文芸書、児童書、実用書などがある。

### 2 電子図書館とは、

- 電子書籍を検索、閲覧、貸出、返却するサービスを提供する土台となる環境（プラットフォーム）である。
- 図書館情報システムと連携しないもの（非連携版）と連携するもの（連携版）がある。

#### （1）非連携版とは

図書館情報システムとは別に独立した形で電子図書館を運用する。

##### 《メリット》

- 低コスト
- 導入までの期間が連携版に比べ短い

##### 《デメリット》

- 認証用ID／パスワードを登録・発行する必要がある  
（一括登録することもできる）
- 図書館情報システムのOPACで電子書籍は検索ができない

#### （2）連携版とは

図書館情報システムとデータを連携し電子図書館を運用する

##### 《メリット》

- 図書館情報システムのID／パスワードがそのまま使用できる
- 図書館情報システムのOPACで電子書籍も検索ができる

##### 《デメリット》

- 高コスト
- 導入までの期間が非連携版に比べ長い

### 3 導入費用について

有料コンテンツを500～600コンテンツ程度導入した場合、初期導入費、運用費(年額)、コンテンツ料で、

- 非連携版 → 初年度300万円程度、次年度以降200万円程度
- 連携版 → 導入している図書館情報システムによって異なるが、非連携版の費用に加え、初年度500万円程度、次年度以降は100万円程度の増額が見込まれる。

### 4 利用者のメリット

#### (1) いつでもどこでも利用できる

- 図書館の休館日に関わらず、24時間365日、いつでも図書館を利用できる。
- 利用者登録をすれば、図書館に来館しなくても、サービスを受けられる（非来館型サービス）

#### (2) さまざまな読書環境の提供

- 通常の活字による読書が困難な方に対して、読み上げ機能や文字サイズの変更、色反転などの機能により、読書ができる環境を提供する。

#### (3) 資料の汚破損等がない

- 電子データのため、資料を汚破損・紛失することがない

#### (4) 返却の遅延がない

- 返却期日以降は自動的に返却されるので、延滞がない。

### 5 利用者のデメリット

閲覧用の端末とインターネット環境がなければ、利用できない。

### 6 課題

#### (1) 提供されるコンテンツが少ない

現状、紙の書籍に比べ、電子書籍のコンテンツは少ない。

特に、新刊は提供までに時間を要する。

#### (2) 費用がかかる

「3 導入および運用費用について」のとおり、必要な費用がかかる。

## 7 各自治体の電子書籍導入状況

2020.8.24 現在

自治体名	蔵書数	貸出上限	貸出日数
八王子市	10,198 冊	2 点	2 週間
狛江市	7,503 冊	2 点	2 週間
昭島市	1,209 冊	2 点	2 週間
千代田区	9,068 冊	5 点	2 週間
渋谷区	7,185 冊	1 点	15 日間

## 参考資料

「電子図書館・電子書籍貸出サービス調査報告 2019」(一般社団法人電子出版製作・流通協議会)